

今月の一言:今月の「全建総連」は企業交渉特集です！読んでみて、実態と違うことがあったら教えてください★

## 第80回目の大手企業交渉の続報！

この秋に交渉したのは、ゼネコン29社、住宅企業11社、サブコン4社。「担い手3法」が成立し、すべての職人が安心して暮らせる賃金・労働条件に向けた取り組みを具体化させ、「まっとうな単価」を値切らない仕組みを重層下請けの全ての階層に根付かせる具体策を迫りました。

賃金については、「5%前後の賃金上昇がみられた」（竹中）、「今春比2.7%の上昇」（清水）とした企業がある一方、「横ばい、12月に標準単価を15%引き上げる」（大林）、「微減」（前田建設）、「若干の上昇」（大和ハウス）、「前年と同水準」（積水化学工業）などの回答になり、全体としては微増・横ばいが実態です。

2次以下への賃上げでは、鴻池組では「見積もりを聴取、内容を透明化して、労務費の行き渡りを元請けが把握していくモデル工事を実践する」と回答。「現場の実態に近い情報を交換したい」（竹中）、「1次・2次以降の現場労働者にヒアリング」（ダイダン、銭高、東急）など、実態に即した対応を行っている企業が出始めています。共通するのは、1次に対し適切な労務費を内訳明示した見積書を提出することを指導、2次以下にも同様の見積もりをするように要請していることで、現場から適切な見積もりを行う＝請求・要求していくことが、賃金単価の引き上げなどの処遇改善への第一歩であることを、改めて実践していく必要があります。

## 建設業で賃上げ99.7%！しかし倒産は過去10年で最悪！

10月に厚生労働省2024年「賃金引き上げ等の実態に関する調査」を発表。建設業で賃金の引き上げが行われた（行われる）企業の割合は99.7%。賃金の平均改定額は1万5,283円で、前年比で4.3%増加しました。一方、2024年に発生した建設業の倒産は10月までに1566件に達し、通年では過去10年で最多を更新する見込みです。原因は建築資材価格の高止まり、「職人不足」と求人難に伴う人件費の高騰で、原材料とエネルギーコスト、労務費の大幅な引き上げ分を価格に転嫁するための交渉が肝要です。

## 再掲！町場群・野丁場群合同！東京土建学習会＆大忘年会

企業交渉に向けた仲間への聞き取りの際、「ここだけの話」「今だから言うけど」という前置きの後に、大手企業による労災隠しや劣悪な現場環境について組合員から報告があります。東京土建は、本部のX（旧ツイッター）に寄せられた「助けてください」などのSOSの声に応え、現場の改善とゼネコンからの謝罪を勝ち取った成果を持っています。声を上げたら変えられることを皆さんと共有する東京土建学習会を開催します。このニュースが届いた方は全員参加対象です！

**日程 12月16日⑨19時 渋谷支部会館3階**

**前半：「仲間の声・要求を集め現場を変える方法」を学習します。**

**後半：講演内容を交流テーマに、パーっと忘年会を行います。**

お読みになった方はお名前をご記入の上、渋谷支部までご返送ください 氏名：